

南相馬市地域課題解決調査研究事業 成果報告

1、実施概要

【調査研究】「継続的な放課後児童クラブ支援による健全育成の拠点づくり」

【事業主体】新潟県立大学

【連携団体】南相馬市教育委員会事務局幼児教育課
生活協同組合コープにいがた

【実施内容】

南相馬市における健全育成の拠点づくりのために、既存の社会資源として現存する放課後児童クラブを活用しました。南相馬市内には、教育委員会が直轄する放課後児童クラブが11か所（15クラブ）あり、地域の健全育成の拠点として根付かせることの有効性を検証するために、新潟県立大学による継続的な放課後児童クラブ支援を実施しました。そのために、福祉系の教員と大学生で組織されるスタッフを派遣し、放課後児童クラブの職員である放課後児童支援員とともに子ども支援にあたりました。

具体的には、児童福祉等を専門とする大学教員による放課後児童支援員への助言指導と、放課後児童クラブへの大学生の派遣による子ども支援事業を実施しました。

平成28年度は、第1期（9月）と第2期（3月）にわたって事業を実施しました。第1期事業の実施をふまえて、継続事業となる第2期事業の効果測定を実施しました。詳細は以下のとおりです。



（第1期）

平成28年9月1日（木）～3日（土）

スタッフ28名

支援先

（東町児童クラブ1・2、原町第一児童クラブ、橋本町児童クラブ、上町児童クラブ1・2、石神第一児童クラブ、石神第二児童クラブ、太田児童クラブ、大甕児童クラブ、鹿島児童クラブ1・2、上真野児童クラブ、八沢児童クラブ、小高合同児童クラブ）

（第2期）

平成29年3月2日（木）～4日（土）

スタッフ35名

支援先

（東町児童クラブ1・2、原町第一児童クラブ、橋本町児童クラブ、上町児童クラブ1・2、石神第一児童クラブ、石神第二児童クラブ、太田児童クラブ、大甕児童クラブ、鹿島児童クラブ1・2、上真野児童クラブ、八沢児童クラブ、小高合同児童クラブ）

2、事業の実際（第2期）

【子ども支援プログラム1日目】

今日から3日間、市内の児童館、児童クラブで子どもたちと一緒に過ごします。33名の学生のうち、最多の4年生は7回目のプログラム参加になります。初めて参加する学生も多く、それぞれに再会や新しい出会いを楽しみに、ワクワクを抱えながら、新潟県立大学を出発しました。



子どもたちは学生との久しぶりの再開を喜んだり、今回来られなかった学生の事を聞いてくれたりしました。初めて参加する学生ともすぐに打ち解けてくれ、楽しい時間を過ごせました。



子どもたちと一緒に宿題をしたり、カードゲームやボードゲームで遊んだりしました。児童クラブによっては、絵本の読み聞かせをしたり、万華鏡を手作りしたりしていました。体育館を使用できる児童クラブでは、おにごっこや縄跳び、バドミントン、サッカーなど、思いきり体を動かしていました。



【子ども支援プログラム2日目】

新潟の新聞社が取材に来ました。早速活動のようすが紹介されました。



(出典)
新潟日報
2017年3月3日
朝刊

午前は市役所職員に案内していただき、「消防・防災センター」と「かしまわんぱく広場」、「南相馬みんなの遊び場」を見学させていただきました。

震災直後の貴重な資料を拝見したり、お話をうかがったりして、たいへん勉強になりました。



午後からは昨日に続き、11カ所の児童クラブで子どもたちと楽しくすごしました。

また、「コープにいがた」からは、おやつへの支援をいただき、子どもたちと一緒に美味しくいただきました。



スタッフミーティングでは、今日の活動報告や、児童クラブからいただいた記念品の回覧を行いました。4年間継続してかかわった児童クラブから「卒業証書」をいただいた大学生スタッフもいました。たくさんの思いが詰まった作品に、学生たちは一同に感動していました。

また、お世話になった児童クラブに学生たちも壁面装飾や思い出の品を感謝を込めて製作してきました。



【子ども支援プログラム3日目】

土曜日なので、4カ所での合同保育になりました。土曜利用の子どもが少なく、子どもたちは学生たちをひとりじめにできて喜んでいました。

お昼ごはんはみんなでおしゃべりをしながら、楽しくお弁当を一緒に食べました。

3日間のプログラムはとてもなごりおしく、子どもたちと「またね」の約束をして新潟への帰路につきました。



3、スタッフの参加報告

【学生スタッフのコメント（抜粋）】

（大学生A）

このプログラムに参加してから、あっという間に4年が経ち、（卒業のため）最後の参加になってしまいました。今回も子どもたちが笑顔で迎えてくれ、また一緒に元気な姿で遊ぶことができ、とても嬉しかったです。子どもたちは会うたびに成長していたり、おとなになったなど感じる場面がたくさんありました。その成長が私にとっても嬉しいことであり、次の参加が楽しみでした。次回は（卒業のため）来ることができませんが、これまでのようにこのプログラムが継続し、子どもたちが笑顔になれるような活動であってほしいと思いました。「またね」の約束が果たされるよう後輩に引き継いでいきたいと思います。今まで（4年間）本当にありがとうございました。

（大学生B）

半年ぶりに会う児童クラブのみんなは相変わらず元気いっぱい、今回も私自身がたくさんのパワーをもらえたように思います。今回でこのプログラムの参加は7回目となり、子どもたちの成長を見られてとても嬉しく感じました。児童クラブ支援員と子どもたちのおかげで、楽しい思い出や、災害に関して考えさせられる貴重な経験もさせていただきました。これらの経験を大切に今後活かしていきたいです。

（大学生C）

訪問直前（平成29年3月）にも地震が起きたことで、改めて当時（平成23年4月）の状況を深く知るきっかけになりました。子どもたちも「びっくりしたね」と口ぐちに言っており、私にできることは何かを考えながら話をしたり一緒に遊んだりしました。子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ、とても有意義な時間を過ごせました。

（大学生D）

小高の子どもたちと関わったのは今回で7回目となり、（私は）早くも卒業となってしまいました。小高合同児童クラブは、来年度から小高区での再開となり、子どもたちも離ればなれになってしまうかもしれませんが、皆さんが笑顔で小高区やそれぞれの場所で過ごせることを願っています。またきっと（新潟県立大学の）大学生が遊びに行くと思うので、その時はよろしくをお願いします。

【児童クラブからのコメント（抜粋）】

（児童クラブ支援員A）

大学生の皆さんが（南相馬市に）来てくれることに、いつも力をいただいています。皆さんの穏やかで和やかな雰囲気が子どもたちの心をやわらかくしてくれるようすを見て、自分と子どもたちとの関係性を見つめなおす機会になりました。再会できることを子どもたちと楽しみにしています。また会いましょう！

（児童クラブ支援員B）

子どもたちに「大学生たちが来るよ！」とお知らせしてから、「いつ来るの？」「明日だけ？」と楽しみにしていました。当たり前のように大学生スタッフが来てくれると思っていて、再会するとすぐ楽しい笑い声であふれましたね。それもいつも笑顔であたたかく受け入れてくれる大学生スタッフのおかげです。2日目は、大学生スタッフがあそびを教えてくれ、ふだん私たちではできない部分や不足している部分を補ってもらい助かりました。また来てくれることを子どもたちも支援員も待っています。

4、事業実施の成果

【南相馬市の課題】

本団体は、東日本大震災の被災地である南相馬市教育委員会と子ども支援に関する連携のもとに、これまで5年間にわたって継続的に支援にあたってきました。南相馬市内には、教育委員会が直轄する放課後児童クラブが11か所（15クラブ）あり、これらすべての放課後児童クラブに大学生スタッフを派遣することによって、全市的な子ども支援の展開が可能となることが実証されました。

また、今回の調査研究事業の実施により、地域の健全育成の拠点づくりとして、現地の社会資源として現存する「放課後児童クラブ」を活用した子ども支援が有効であることがわかりました。

さらに、2017（平成29）年4月からは、震災後から6年間ぶりに小高区内の小学校が再開されることになっており、新たな子ども支援の展開を模索する必要性が確認されました。

したがって、今後の子どもの支援の方法として、新たに再開される小高小学校区をふくめた「健全育成の拠点づくり」の一環として、大学生スタッフの派遣によるプログラムを今後も継続して実施することが必要であると考えられます。

【課題解決の提言】

提言①

大学生スタッフの派遣による健全育成の拠点づくりは、本調査研究事業終了後も引き続き展開されます。これらの事業は南相馬市教育委員会と協同して実施することになるため、現地での定着が見込まれます。将来的には、南相馬市教育委員会主催の事業プログラムへと発展させることが可能であり、今後の継続性を担保するために、引き続き当該事業を進めます。

提言②

南相馬市の放課後児童クラブは、地元の小学校や児童センターに併設されており、地域に密着した健全育成の場です。地域のさまざまな人たちが集うことのできる地域の社会資源であり、地域住民とのかかわりによる健全育成の場となる可能性があります。小高区を含めた放課後児童クラブが地域交流の居場所になれば、今後再開される小高小学校区においても、地元のおとなたちが継続的に地域の子どもたちにかかわることができます。